

金融市場NOW

# 投資家 新興国通貨を選別へ

## 経済成長や政治環境などを考慮

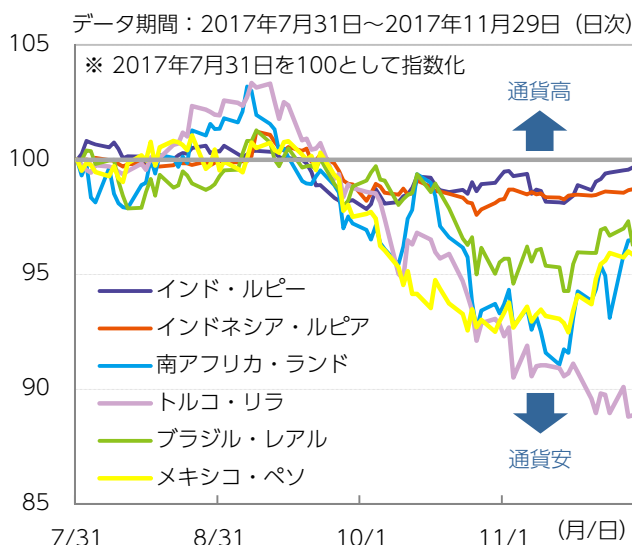
- ▶ トランプ米政権発足前に米国に回帰していた資金が再び新興国に向かいつつある。
- ▶ 資源国通貨中心の投資から、各国の経済や政治環境等を考慮して投資する姿勢が鮮明化。
- ▶ 投資家の新興国通貨選別の動きは継続するとみられる。

トランプ米政権発足前に今後の利上げを見込んで米国に回帰していた資金が、再び新興国に向かっていくようです。欧米の長引く金融緩和により溢れた緩和マネーは、より高い利回りを求め、債券への投資などを通じて新興国に流入しています。原油価格の上昇などを背景にこれまでの投資の対象は豊富な資源を有し、その資源を輸出することが経済活動の大きな割合を占める資源国通貨などが中心となっていました。しかし昨今では、経済や政治環境等を考慮して新興国通貨を選別して投資する動きが鮮明となりつつあるようです。

今年の7月末と比較して、対米ドルで通貨の下落が目立っているのは、米国との関係悪化や経常赤字の拡大が不安視されているトルコや、大統領の後継問題で混乱する南アフリカなどです。一方、通貨の動きが堅調であるのは、経常赤字の縮小や外貨準備高の増加等が評価されたインドやインドネシアです（図表1）。米大手格付け会社ムーディーズは、経済改革の進展が見込めるとし、2017年11月16日にインド国債の格付けを1段階引き上げています。相対的に高い経済成長が見込まれること等を背景に（図表2）、インドやインドネシアが欧米のハイイールド（低格付けの高利回り）債などから流出する資金の受け皿になっているようです。

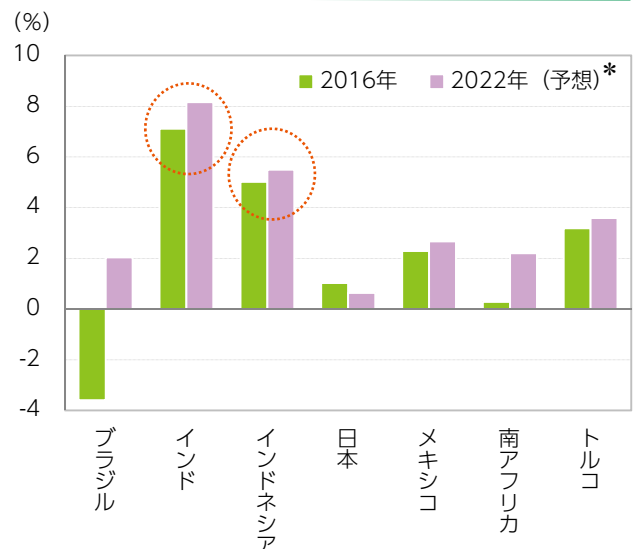
新興国の中でも各国の状況は大きく異なっており、経済成長力や資源依存度、政策への信認度の高さ、またこれらの改善が期待できる国が投資家から選別される動きが継続していくものとみられます。

図表1：上昇通貨と下落通貨に分かれる



※ 主要新興国通貨の推移（対米ドル）

図表2：経済環境の改善により高成長が見込まれる



※各国の国内総生産（GDP）（前年比、インドは前年度比）の比較  
\* 2017年10月時点のIMFの予想値

出所) 図表1はブルームバーグ、図表2はIMFのデータをもとにニッセイアセットマネジメント作成

●当資料は、市場環境に関する情報の提供を目的として、ニッセイアセットマネジメントが作成したものであり、特定の有価証券等の勧誘を目的とするものではありません。実際の投資等に係る最終的な決定はご自身で判断してください。●当資料は、信頼できると考えられる情報に基づいて作成しておりますが、情報の正確性、完全性を保証するものではありません。●当資料のグラフ・数値等はあくまでも過去の実績であり、将来の投資収益を示唆あるいは保証するものではありません。また税金・手数料等を考慮しておりませんので、実質的な投資成果を示すものではありません。●当資料にインデックス・統計資料等が記載される場合、それらの知的所有権その他の一切の権利は、その発行者および許諾者に帰属します。●投資する有価証券の価格の変動等により損失を生じるおそれがあります。●手数料や報酬等の種類ごとの金額及びその合計額については、具体的な商品をお勧めするものではないので、表示することができません。●当資料のいかなる内容も将来の市場環境の変動等を保証するものではありません。商号等：ニッセイアセットマネジメント株式会社 金融商品取引業者 関東財務局長（金商）第369号 加入協会：一般社団法人投資信託協会 一般社団法人日本投資顧問業協会